



2

した えんぴつで下がきしよう

つぎに、えんぴつで大まかに下がきをします。下がきをすることで、ものの距離や大きさの関係を整えることができ、完成度が高まります。

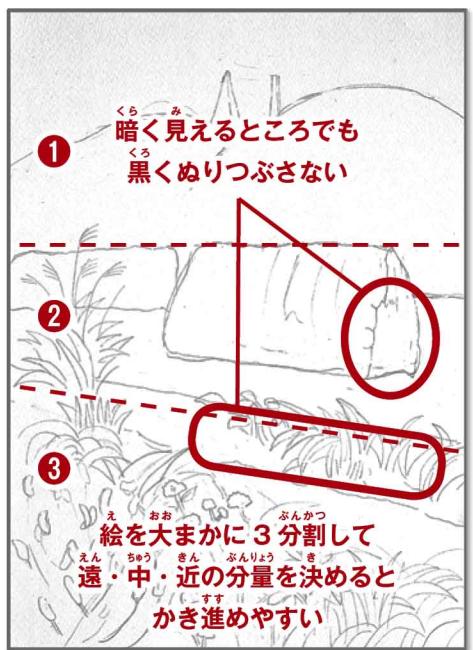


おお かたち 大まかな形をかこう

風景の大まかな形を濃さのうすい線でかきます。手前のものはていねいに、奥のものは大まかにかきます。細かいところは、あまり書きこみすぎないようにしましょう。黒くぬりつぶしたり細かくかいてしまったりすると、絵の具をぬったときに色がにごってしまいます。



おく 奥に行くほど大まかにかきました。

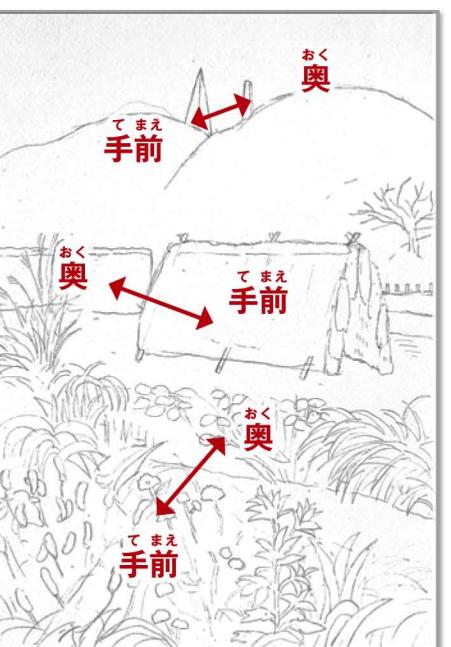


おお たか くら 大きさや高さを比べよう

もの同士の、大きさや高さを比べながらかきましょう。小さなものでも手前にあれば大きく、大きなものでも奥にあれば小さくかくと前後関係が整います。



きんけい くさばな ちきうけい いね えんけい てつとう おお たか 近景は草花、中景は稻かけ、遠景は鉄塔の大きさや高さを比べました。



えん きん かん ととの 遠近感を整えよう

全体を見て、近景・中景・遠景の関係を整理しましょう。遠景より中景が、中景より近景が手前にあるように見えますか？ 違和感があれば、もう一度もの大きさを確認しましょう。



きんけい たか きんけい ちきうけい さ 近景をかき足して、近景と中景の差をつけました。

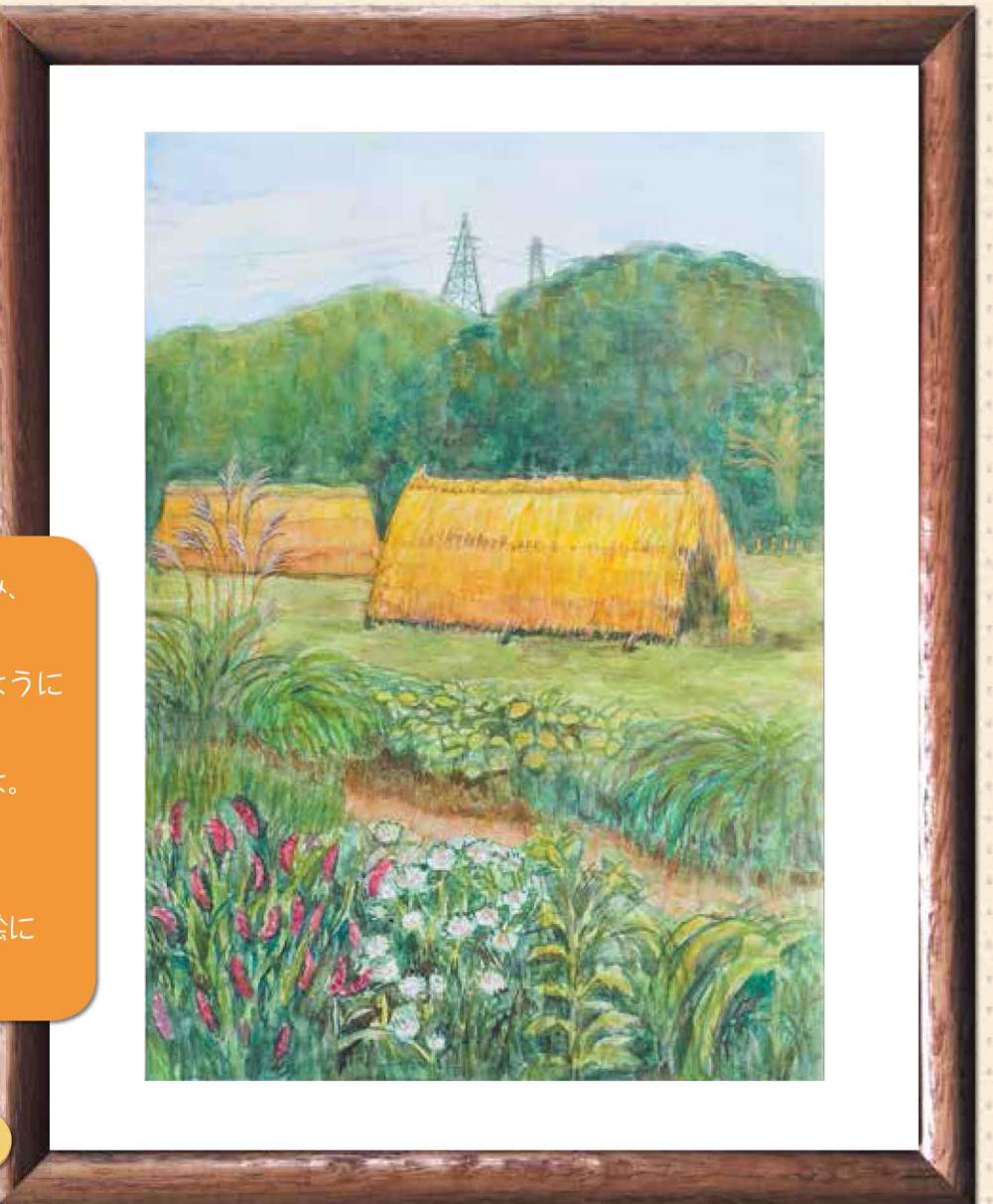




仕上げをしよう

さいごに、細かいところをかきこんで、全体を仕上げていきます。全体の明暗や遠近感を整えて、まとまりのある絵にしましょう。

完成作品



手前をかきこみ、奥に行くほど
かきこまないように
したことで、
遠近感が出たよ。
自然の大きな
スケール感が
伝わってくる絵にな
ったね！



細かいところをかきこもう

細めの筆を使って、細かいところをかきこんでいきます。遠景はかきこみすぎないほうが、遠くにあるように見えるので、かき分けます。仕上げでは、明るいところを引き立たせるために白色を使つてもよいですが、ほかの色と混ぜて使いましょう。画面がぼやけるので、使いすぎないように注意しましょう。



近景の草花の形をよく見てかきこみました。



メリハリをつけよう

遠景が奥に見えないときは、遠景のコントラスト（明暗や色味の差）を弱めます。近景が手前に見えないときは、近景のコントラストを強めましょう。



暗い色でかけの部分をかきこみ、コントラストを強めました。



全体を確認しよう

絵の全体をながめて完成度を高めます。「近景・中景・遠景」や「明るいところ・暗いところ」をとらえられていますか？ さいごに、暗い色を使ってもののふちや、もっとも暗いかけの部分をかきこんだら、完成です。



暗いところをさらにかきこみました。

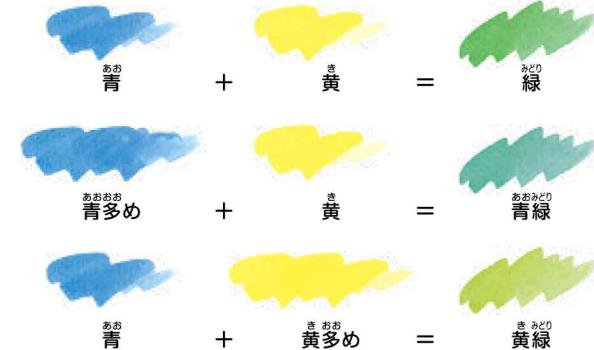
いろくふう 色を工夫してみよう

どんな色を使うかによって、絵全体の雰囲気や印象が変わります。ここでは、色の使い分けをする際の基本となる知識である「混色」「補色」「明度と彩度」をしおりたいします。

こんじょく 混 色

2色以上の色を混ぜ合わせて、別の色をつくることを「混色」といいます。絵の具のチューブから出した色をそのまま使うのではなく、混色した絵の具を使いましょう。混ぜる分量を変えることで、2色の絵の具から数種類の色をつくることができます。

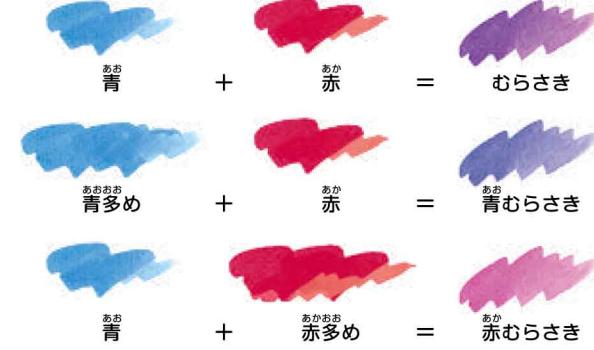
●緑色系の色をつくる



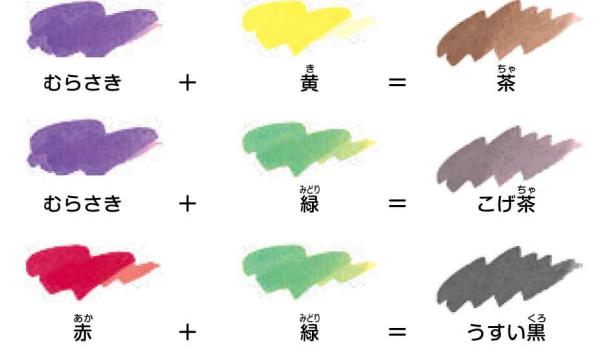
●オレンジ色系の色をつくる



●むらさき色系の色をつくる

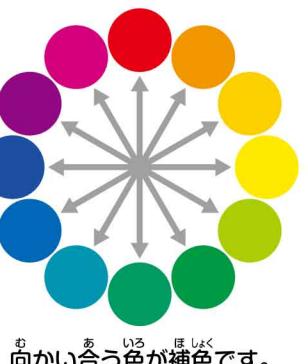


●茶色系の色をつくる



ほしょく 補 色

たがいの色をもっとも際立たせることができる色の組み合わせを「補色」といいます。補色関係の色を使うと2つの色がたがいにひびき合い、より美しい絵になります。また、補色同士を混色すると暗い色になります。かけをかくときなどに使いましょう。



むかいかう色が補色です。



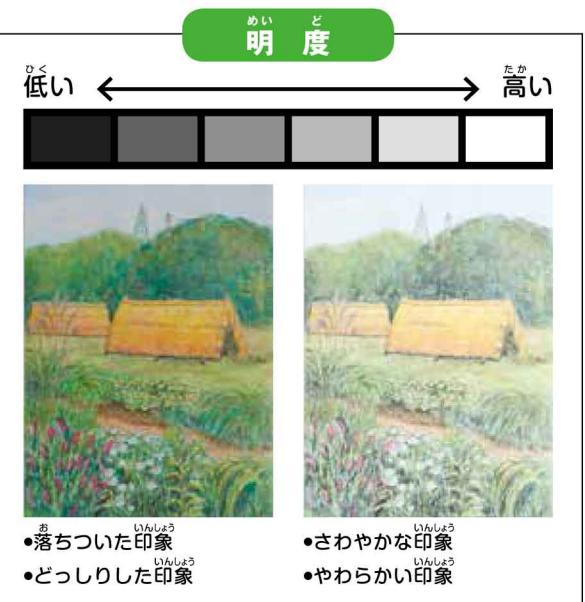
黄色い花のかげを、補色から遠い緑色を使ってかいた場合。



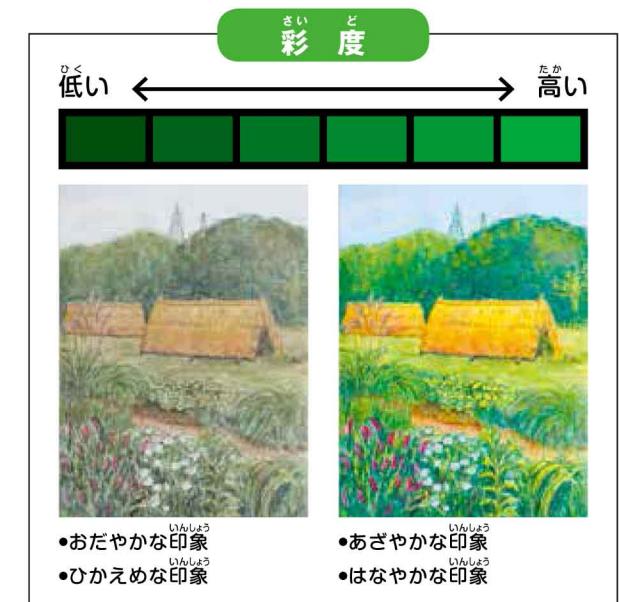
黄色い花のかげを、補色により近い青色を使ってかいた場合。

めいどさいど 明度と彩度

色の明るさの度合いを「明度」といい、色のあざやかさの度合いを「彩度」といいます。同じ構図の絵でも、明度や彩度を変えることで大きく印象が変わります。明度や彩度は「高いほうがいい」「低いほうがいい」といったことはありません。自分が美しいと思うバランスを考えます。



- 落ちついた印象
- どっしりした印象



- おだやかな印象
- ひかえめな印象
- あざやかな印象
- はなやかな印象